

会 議 録

会議の名称	平成29年度第5回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成29年10月25日(水)午後7時00分～9時30分
開催場所	水谷公民館 講座室
出席者	搦木道代委員、本間雄一委員、荒川照子委員、板橋三宏委員、京谷恵子委員、佐々木眞理子委員、古澤立巳委員、吉田徹子委員、吉田廣子委員 事務局
欠席者	岡野雅一委員
公開・非公開	公開(傍聴人 0人)
会議次第	1. 情報提供 2. 協議事項 (1) 家庭学習応援事業 見学 (2) 「家庭教育支援」につなげる方策 3. 報告及び連絡事項
会議資料	定期刊行物
会議録確認	搦木道代委員

会 議 内 容 (要点記録)

1. 開 会

○議長あいさつ

2. 情報提供

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課より2名出席。平成29年2月に
出された建議「学びの循環を広め、地域での学びの成果を活用するために～ネッ
トワークを生かす県の支援の在り方について～」についての解説と近況の情報提
供をいただいた。

3. 協議事項

(1) 家庭学習応援事業 見学

水谷公民館で実施しているイブニングスクール(中学3年生・英語)を見学。

(2) 「家庭教育支援」につなげる方策

【議長】 見学して感じたことの意見を出していただきたい。

【委員】 先生の板書がとてもきれいで子ども達もわかりやすそうであった。子どもの
ノートを見てみたが、理解できている様子が伺えた。

【委員】 それぞれのクラスの学習内容が、それぞれの学校の進度にどの程度合ってい
るのか気になった。また、非常に先生方が丁寧に教えていると感じたが、受
け手の子ども側の反応、受け止め方が気になったので、子どもたちに感想を
聞いてみたいと思った。

【委員】 メインの講師とサブの先生の連携が非常にとれていると感じた。

【委員】 ノートを丁寧にとっていたが、それを家に持ち帰り、どのように家庭学習と
して定着させるのかというのが課題になるのではないかと。

【事務局】 家庭学習については、毎日コツコツ行えるだけの文量の宿題が出されてお
り、その宿題の確認をサブ講師が行っている。きちんと宿題をこなしていな
い場合には、講師より check が入る。

【委員】 学校の授業とは比較ができないが、講師が板書で「今日やること」を書いて
いた。学校でわからなかったところを、イブニングスクールに参加して整理
できるのではないかと感じた。

【委員】 板書もよくできていたが、問題を子どもたちがスラスラと解いていた。理解
が深まっているように感じた。

【委員】 講師が配布資料を確認しながら、また、折々で子どもを褒めながら進めてい
た。この時期の子どもは、何かひとつ自信をもつとびっくりするくらい伸び
るので、つながってくれれば良いと感じた。

【委員】 前回会議でも対象学年の話は出たが、対象が中学3年生になっている。受験
を控えているので、モチベーションも上がり、集中してくるのは当然のこと。
家庭学習応援事業の趣旨である①基礎学力の定着と②家庭学習の習慣化とい
う視点からいくと、中学1年生や2年生の段階からこの取り組みを行った方
が効果的ではないかと感じる。

【事務局】 部活などとの兼ね合いもあり、放課後の時間が確保できるということで、
中学3年生となった経緯がある。また、11月に児童・生徒・保護者を対象

としたアンケートを行うが、その中で「いつから苦手とを感じるようになったか」という項目が入っている。その結果も次年度の対象学年を考える上で、参考にしたいと考えている。

【県職員】授業という観点から、非常に板書がよいと感じた。家庭学習の習慣化を図るときに、子どもたちが家に持ち帰り振り返るときに、板書が非常にわかりやすいとノートも見やすく、効果的になるのではないかと感じた。

【委員】ベーシッククラスの先生同士の連携が上手くできており、子ども達にも十分届いているためか、納得しながらやっているような表情に見えた。子どもたちの自信につながるととてもよいと感じた。先日、小学校の会議があり出席をしてこの事業の話をしたが、学校の先生は知らないようだった。連携という意味で、学校の先生が知っているかいないかは非常に重要と思われるので、先生方への周知という意味で次年度の課題にできたらよい。

【委員】今年始まったこともあり、対象学年の保護者や学校への周知は次年度きちんと行った方がよい。また、家庭学習の習慣化がない児童生徒だと、勉強すること自体をそもそも苦手としている可能性があるため、公民館に来て、みんなと一緒にできる、板書がきれいだとノートをとることができる、ノートがきれいだと家でも見返すことができるなど、良い点をどんどん広げていけば、口コミでも広がり、充実した事業になると思われる。

【委員】11月にアンケートをとるとのことだったが、次年度につながるような設問、回答の選択肢（複数回答ではなく、一つを答えるようなもの）にしてほしい。

【委員】生涯学習課が行っているため、保護者に向けてイベントが組めるととても良いと感じるのと、子ども達もこの事業をきっかけに知り合えたことから毎週勉強をして、3月になったら「おしまい、さようなら」というのは少々寂しいかもしれない。中学生は受験があるため難しいかもしれないが、5年生に向けては何か発信してもよいのではないかと。

【事務局】保護者に向けて、“興味・関心・危機感”をもってもらえるようなものを発信していきたいと考えている。

【委員】次年度以降、所管が変わるということはなく、生涯学習課で行うのであれば、特色をきちんと出していく必要があると思う。

【委員】この事業を楽しいと子どもたちが感じて参加しているのであれば、家に帰って親にも報告していると思われる。親子で参加できるようなイベントをお楽しみで企画をして、参加状況により関心度も図れるのではないかと。

【委員】家庭教育という視点から考えると、親子で一緒に楽しみ会話が増えることなどはとても良いことのように思う。一方で、宿題はきちんとやっているのに学力には反映されないということも聞くと、保護者にリアルな危機感を持ってもらうことも必要と感じている。保護者会などをみても、出席率が高いとは言えない現状があり、プリントが配布されて終わりなど、一方通行的な印象を受ける。子どもの状況をきちんと把握するという意味で、現実を伝え、危機感をもつことの必要性を感じている。中学生くらいまでは、ある程度、親が方向性を示してあげることが大事であり、“子どもが関心を示さないから何もしなくていい”と考えている親が多い気がする。また、関心のある親は過干渉になっており、両極端になっているのではないかと感じることもある。

【委員】保護者の関わり方で、子どもの学力が大きく変わるということはよく言われる。特色を出すうえでも、家庭教育支援に向けて、発信していくことは今後の課題になるのではないか。

【事務局】案を検討し、次回会議にて提案をしたい。

4. 報告及び連絡事項

10/4 入間地区社会教育協議会社会教育委員研修会（日高）

5. その他

次回会議日程

平成29年度第6回会議

日程：平成29年12月6日（水）午後7時～

場所：教育委員会 会議室

6. 閉 会

○副議長あいさつ